

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790500104		
法人名	有限会社 アーバン・エステート		
事業所名	グループホーム 真栄原2丁目		
所在地	沖縄県宜野湾市真栄原2丁目25番10号		
自己評価作成日	令和7年4月17日	評価結果市町村受理日	令和7年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4790500104-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和7 年 4 月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム真栄原2丁目は住宅街の中にあり、大きな道路からは離れており、とても静かで暮らしやすい環境にあります。地域、近隣住民の方たちとの関わり合いもとても良好です。利用者の方々は思い思いに過ごされています。 コロナ感染症が落ち着き本年度からは外出など、様々なレク活動が始まり、ご家族の参加、面会も増えてきています。利用者へのより良いサービス提供に努めていくよう、職員全員一丸となって質の高いサービス、楽しいグループホームを作り上げていきます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅街の一角にあり、玄関周辺には色とりどりの花が咲くプランターが設置されており地域に溶け込んでいる。運営推進会議の際、市からの発案で毎回の運営推進会議の案内文書に年間の開催予定日、会議概要を示して情報共有している。また昨年度から家族の構成員を毎回入れ替える方針に切り替え、多くの家族が参画できるようになり意見を運営に活かせるようになっている。理念にある「自分らしく」を入浴支援で実践した例で、記障障害のある利用者2名が入浴したことを忘れた際に、入浴した日に利用者自身でチェック表に○付けしてもらい、チェック表を確認してもらうことで利用者が入浴日を理解し納得できるようになり希望にそったスムーズな誘導・入浴支援ができるようになった。また、清潔衛生面で尿路感染の予防のため排泄による陰部汚染時には利用者同意のもと都度、入浴を行うことを徹底し清潔を保持すると共に自尊心へも配慮している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者のご家族が事業所に訪れて、分かりやすく目につくように理念を掲示しています。職員も理念を確認する事ができるよう掲示している。	4つの理念が明記された掲示物を玄関入口側、洗面台横、事務スペース横の壁面に掲げて職員の目に入るよう共有を工夫している。職員の1人は『その人らしさ』を理念の中でも特に意識しており「何を求めているのだろう」「何を考えているのだろう」と模索し実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所周辺を散歩したり、畑仕事などを通じて近隣住民の方々とのかわりをもつようにしている。	自治会長が2週に一度の頻度で来訪したり、近所に住んでいる小学生が週に2、3日訪れて利用者からお菓子をもらったり、子ども達から感謝の似顔絵をプレゼントされるという交流も生まれている。また向かいの住民からは手作りのシャツなどの衣服を差し入れてもらえる間柄で日常的な交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は小中高生の体験学習の受け入れを行っていました。 キリスト教短期大学学生の職場体験の受け入れ			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	宜野湾市介護長寿課、地域包括支援センター。 地域住民の方々に報告、相談をし意見を頂いている。	運営推進会議は年6回開催され、市からの発案で、毎回の運営推進会議の案内文書には年間の開催予定と会議の概要が示されており、参加者へ配慮している。また昨年度から家族の構成員を毎回入れ替える事で、多くの家族が運営に参画できるよう工夫をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	宜野湾市介護長寿課、障害福祉課、福祉課へ相談報告、グループホーム連絡会を通して情報交換等をしている。	利用者の個別事情や入居に関する確認のために介護長寿課、障害福祉課、福祉課それぞれと連絡報告相談を密に行うようにしている。また市が事務局を担う市内のグループホーム連絡会に参加し情報共有に努めて協力関係を築いている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング、勉強会を行い、安易な拘束を行わない。転倒リスクの高い利用者に関してはセンサーコールを設置している。	身体拘束適正化に関する指針とマニュアルが整備され、研修資料をまとめ職員間で閲覧できる状態にしている。管理者はミーティングにおいて身体拘束についての職員が意見交換しやすい場づくりを行っている。利用者の状態に合わせて呼び出しの鈴を設置、センサーコールを設置するなど対応している。	議題の記録はあるが意見交換の議事録が残されていないため、議事録の整備と委員会の体制づくりを進めるよう望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会、外部研修にて権利擁護虐待防止を学び、理解するよう取り組んでいる。	高齢者虐待に関する指針とマニュアルが整備されており、研修資料を職員間で閲覧可能な状態にしている。管理者は日々の実践に活かせるよう指導の際に確認する材料として活用している。利用者の言動に意味があること、どう寄り添ったらよいか職員に助言している。	議題の記録はあるが意見交換の議事録が残されていないため、議事録の整備と委員会の体制づくりを進めるよう望まれる。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見人制度について勉強会が行われておらず、早急に勉強会をおこない職員全員知識理解を深めるよう取り組みます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、ご家族へ契約内容、重要事項を説明、ご理解いただき了承いただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人、ご家族のご意見要望を聴き、運営に反映するよう努めている。	面会の際や受診対応時など家族と管理者が接する時に意見要望を聞き、検討して実践に繋げるようにしている。また、家族が運営に参画してもらうため運営推進会議で毎回異なる家族に出席を依頼し、他の構成員との意見交換の機会を作っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等を通し職員間で意見、要望を業務の改善、見直しへ話し合っている。	管理者は職員が意見しやすいよう日常から声をかけ、コミュニケーションの頻度を増やしたり、業務改善のアイデアに対して時間をかけて提案する職員と改善策を作り上げている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持ち、ストレスを抱える事がなく業務が出来るよう対応している。	管理者は職員の表情、体調を観察し、ストレスを抱えて仕事に支障を来す前に適切な声かけをこころがけているが、夜勤者の年間二回目の健康診断の受診が確認できなかった。	夜勤職員の健康管理及び適切なケアの実施のためにも、早急に健康診断の受診を法人として組織的に対応できるよう期待したい。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する外部の研修、講習を受講できるように努めている。希望する課題について勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の他事業所とのグループホーム連絡会、外部の研修、講習を通して意見交換、情報交換等、交流を深めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とのコミュニケーションを大切にしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の想いをサービスにつなげ、面会できない場合でも事業所への訪問、電話などで状況について報告、話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の想い、意見を聴き、汲み取りサービス・支援方法を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でご本人がやりたいこと、出来る事を増やしていき楽しい生活が送れるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の体調不良などがあれば早急にご家族にご連絡しています。誕生日など出来るだけご家族に参加して頂き、ご本人、ご家族、職員の繋がりを持つように心がけている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでは外出制限、面会制限を行っていたが、以前の様に気軽に来訪して頂き、外出支援等を行っていきます。	面会の制限は特に行っていないが、複数名の面会があった際には換気の良い廊下で雑談したり個人の部屋で和やかに過ごせるよう周辺環境を活用している。元教員の利用者を探して元教え子が県外海外から来訪することもあり、利用者本人の喜ぶ様子があった。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の集団レク(体操、カラオケ)等で利用者、職員全員がふれあう機会を設け、席替えなど行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所に至った場合でもご相談があれば助言等支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントなど、普段の生活様子から本人からお話、想いを汲み取って支援を行うようにしている。	家族から利用者の生活歴や情報を聞き取りつつ、本人からは日常のケアの中で何気ない言動を頼りに本人の想いを模索している。職員は利用者との会話を楽しみながら、安心に繋がるケアのきっかけを意識して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にこれまでの生活状況・様子をご家族から情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のスタイル、ペースに合わせ、過ごしていただけること、また、一人一人の役割を楽しみに出来るように支援しています。常に日頃の状態・状況変化に留意できるよう観察を心がける。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況・状態を職員で共有し報告、相談し介護計画に反映繋げていく。	介護計画は利用者個々の認定期間と状態の変化に応じて見直し、作成を行っている。モニタリングは1ヶ月～3ヶ月の頻度で行い、利用者の日々の様子を「元気で頑張る表」という個々の活動実践のチェック表をもとに職員同士で確認して計画作成担当者への報告連絡にも活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段より様子観察で変化があった場合、ケアミーティングを行い介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況を把握し支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員、地域住民の方々と情報交換、共有し交流を図っています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はこれまでのかかりつけ医を受診しています。必要に応じて、病院、訪問診療へ紹介しています。	入居前からのかかりつけ医を継続している利用者と、訪問診療に変更した利用者がある。必要に応じて眼科や皮膚科などの受診を勧めており、基本は家族対応ではあるが、事業所で受診対応することもある。事業所が日頃の利用者の状態を医療機関に情報提供し、医療機関からは返書や家族から情報を受け取り連携が取れている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調不良があった場合、看護師へ報告、相談し適切な受診が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が定期受診、入院時には情報提供を行っています。入退院時には病院・ご家族・職員でカンファレンスを行っています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調不良、入退院時などの機会にご家族の意向を伺い話し合っています。施設でのできる事、できない事を十分に説明しご理解いただけるようにしています。	積極的な看取り介護は行っていないが、利用者の体調変化があった時や病院退院時など、今後についての意向を確認し、訪問診療・訪問看護サービスを利用して看取り介護を行った実績もある。利用者・家族の意向に沿った支援ができるように法人内で検討し、取り組んでいる。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応、事故発生時について全職員で話し合い、分からない事、不安に思っている事は法人内各事業所にも相談しています。	急変時の救命救急医療及び延命処置についての意思確認書へ家族署名を得ている。事故発生時・緊急時対応マニュアルは常に職員の確認できる場所に置いてある。施設内にAEDを設置し、職員はAEDの使用方法・心肺蘇生法について消防署で訓練を受けている。事故については、発生時に防止対策を検討し、報告書や申し送りで全職員に周知を図っている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	年2回消防避難訓練を行っています。こ感染症予防まん延防止委員会、指針の整備を行います。	昼夜想定した総合訓練を年2回実施している。自衛消防隊研修に防火管理者の資格を持つ職員2名の参加と、老人ホーム向け防火講座のDVDを使用して職場内で勉強会をしている。感染症予防・対策については、委員会の設置、会議や研修等の実施が確認できなかった。備蓄品についても水以外の食料品が確認できなかった。	備蓄品の補充とリスト(チェック表)を作成し、早急に事業所内で管理できる体制が望まれる。感染症予防対策についても委員会の設置と職員の研修等の実施が望まれる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉使いは接遇の研修・勉強会を行い、職員が意識して尊重するよう対応しています。	共有トイレが1か所あり、入口にはアコーディオンカーテンが設置され、トイレ内の個室2か所の入口はカーテンになっている。排泄しやすい環境と羞恥心に配慮するため、職員は個室から出て、カーテン越しに見守りするようにしている。個人情報保護方針及び利用目的についての文書は誰でも閲覧できるよう玄関先に設置してある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できるように声かけをし本人から相談を聴き表情や態度などからも想いを汲み取る事ができるよう心がけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペース、その時の気持ちで過ごしていただけるように支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月ごとに外部から美容師にきてもらい散髪をしています。その際美容師はご本人、ご家族に相談しています。			
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの食べ物を行事のとき、お正月、敬老会、クリスマス、誕生日などに提供しています。普段の食事にも好きなものを取り入れるようにしています。	利用者が過ごす食堂から調理する姿が確認できるように厨房があり、もやしのひげ取りや人参シリシリ、ケーキのカットやおやつを袋から出し盛り付けするなど、利用者の能力に応じて参加してもらっている。メニューも利用者に希望を聞き取り、行事食を提供するなど工夫を行い、職員も一緒に同じものを食べ楽しみのある食事時間を提供している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者にあわせて、食事の形態を工夫しています。日々の食事摂取量を確認し時には補助食品にて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っています。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄のパターンを全職員で把握して、声かけ、トイレ誘導を行っています。	日中はトイレでの排泄が基本であり、全職員で対応している。チェック表があり、一人ひとりの排泄パターンや尿量等を把握することで声掛け誘導を行っている。夜間はベッドサイドにポータブルトイレを設置するなどの工夫も行っている。排泄に失敗した時は、羞恥心に配慮しつつ浴室へ誘導し清潔を保つなど、感染症対策にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として水分摂取を多めにしたり、毎朝にはヨーグルトを提供。体操、歩行訓練等を行っています。またかかりつけ医にも相談しお薬を服用しています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に添って支援しています。毎日入りたい、ゆっくり午後がいいなど。	原則、羞恥心に配慮し同性介助としている。記憶障害のある利用者2名が入浴したことを忘れた際に、入浴した日に利用者自身でチェック表に○付けしてもらい、チェック表を確認してもらうことでご本人が納得して希望に沿ったスムーズな誘導・入浴ができるようになった。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくり1人で座りたいときにはソファ、ホールから少し離れたイスで過ごしてもらったり、お部屋で過ごしたいときなど支援しています。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期受診後のお薬情報などはファイルに綴り確認できるようにしています。お薬の変更時は記録簿、服薬拒否などがある場合は時間を空けたり対応職員を変えて服薬を促しています。	服薬管理マニュアルは整備されているが、半年間で5件の薬に関する事故報告がある。薬管理・準備は特定の職員がすることになっており、服薬介助者は日報にサインし、最終は日勤と夜勤の勤務者が空の薬袋をチェックすることになっている。薬剤情報はファイリングし確認することができ、変更があった時は送りで情報共有している。	前回はステップ事項に取り上げられていたが、事故が続いており、全職員で落薬事故の原因を明白にし、確実な服薬介助の徹底が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、畑仕事・草花の手入れ等を支援したり、気分転換には市内・近隣へドライブしています		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	朝・夕に施設周辺近所を散歩し近隣住民の方々と交流を図っています。	天気がよい日は、暑い時間帯を避けて近隣へ散歩に出かけている。近くに畑もあり、じゃがいもなど収穫し近所に配ることもある。利用者がマクドナルドやA&Wが食べたいと言った時は、ドライブしながら購入に出かけ、季節や行事に合わせて遠出する際は家族と一緒に過ごす時間が作れるよう家族参加の声かけも行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院受診時、買い出しの際、に本人に支払いをお願いしています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人からの電話を繋いだり、日々の状況(写真・動画)をLINEなどでご家族に送っています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるように壁飾り、置物、ベランダなどで日光浴など、肌で感じる事ができるように心がけています。	職員が毎月担当制で利用者と一緒に壁飾りを制作し、完成した作品は廊下に飾られ、生活空間を季節豊かに彩っている。また、明るい陽射しが差し込む食堂兼リビングは、庭の景色を眺めながらゆったりとくつろげるソファやカラオケを備えており、毎日の清掃と整理整頓で気持ちの良い環境づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日々の利用者の状況を見守り、気の合う利用者同士が過ごせるよう場所を確保したり、時には席移動したり対応しています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が日頃から使っていたものの好きなものをご家族に準備して頂き落ち着くことが出来るよう工夫しています。	事業所が設置しているのはベッドのみ、他は自宅で使用していた物を持ち込んでいただき、衣替えは家族と一緒にやるよう取り組んでいる。物を多く置くことを好まない利用者には家具や置物は最小限にする。明るい感じを好む利用者には、作製の壁飾りや写真などを飾るなど、利用者の特性や好みに合わせて環境づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が好きな事、できる事を把握しご自身で行えるよう支援しています。調理手伝い、清掃、レク活動、洗濯など		